



勇気と愛は海を越える

第21回チェスボローカップ水泳駅伝

「勇気と愛は海を越える」をテーマに第21回チェスボローカップ水泳駅伝が8月1日、県内外から37チーム182人が参加し、マグアビーチ（車力漁港）で行われました。

この大会は、つがる市と米国メーン州バス市との直線距離1万2000mを全参加者の泳いだ距離を合計し、毎年累計して泳ぎ切ろうという大会です。

大会当日は強風に見舞われ、ジュニアクラスを除く4クラスの距離を短縮して行われました。参加者は悪条件をもとめせず、観客の声援を受けながら力泳。今年の参加選手が泳いだ合計距離は55.87km、これで通算距離は4636.84km、目標まであと5563.16kmとなりました。



次の泳者へ思いが繋がれる

厳しい自然条件の中、精いっぱい力を出して泳ぐ選手たち



チェスボロー倶楽部の秋田谷建幸会長



「チェスボローカップ！」のかけ声で記念写真

チェスボロー号遭難120周年慰霊祭



慰霊碑に白菊をささげるバス市訪問団



慰霊祭終了後、高山小公園内に梨の木を記念植樹

明治22年10月30日、日本海七里長浜沖合で起こった米国バス市船籍の帆走船チェスボロー号遭難から今年120周年の節目を迎えました。チェスボロー倶楽部では遭難者の慰霊と、バス市との友好を深めるとともに、先人たちの勇気と愛をもって必死の救助にあたった史実を後世に語り継ぐために7月26日、高山小公園で慰霊祭を挙行了しました。

慰霊祭には車力分屯基地の井上伸康司令、車力通信所のカービー・アトウエル大尉ら約60人が出席。神事、黙とうに続き、市滞在中のバス市訪問団が慰霊碑に献花をしました。同倶楽部の小寺吉徳副会長は「当時の村民の誇り高き行動を末永く語り継いでいきたい」、バス市訪問団を代表してジョーン・クックさんが「本日この場に出席できたことを光栄に思います」と慰霊の言葉をささげました。



夜空に舞う千発の花火

7月31日、第6回つがる市花火大会が車力漁港で行われ、約1万2千人の市民らが夏空を彩る華麗な花火を堪能しました。



初のジュニアボードレース大会には市内の小学生が参加し、ライフセービングの技術を学んだ



つがる市

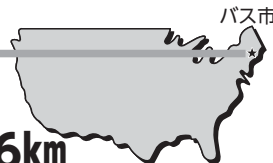
通算達成距離

4636.84km

10200km

目標まであと

5563.16km



バス市



ハーフオープンクラスでゴールするつがる市の「復活! 完熟メロン」チーム



バス市訪問団や米陸軍車力通信所の職員らも選手として参加し、国際色豊かな大会となった



オープンクラス優勝の「海自大湊A」チーム



大会前日のウェルカムパーティ



陸から大きな声援を送る仲間たち

バス市訪問団が 市民と交流を深める

7月23日から8月3日までの12日間バス市訪問団22人がつがる市に滞在し、ホームステイや文化体験交流などを通してお互いの交流を深めました。平成2年から始まったバス市からの訪問団は延べ303人になりました。



木造高校生との交流では剣道の体験を通して日本文化を学ぶ



福島市長を表敬訪問し、記念写真



今年初めてホストファミリーとなった 小島睦雄さん(柏)家族の感想

睦雄さん 「だんだん日を重ねるにつれて気持ちがつながっていくのを実感できたことが良かった」

一子さん 「ジミーは礼儀正しく、何でも日本文化を学びたいという気持ちが伝わってきた。アメリカ人に対する先入観がなくなった」

瑤平君 「自分の英語を試したいのと国際交流が大切だという気持ちでホストになった。またチャンスがあればやりたいし、バス市にも行きたい」